NIE実践報告

1．タイトル：身近な記事から関心を持ち、発表能力を高める。

2．学校名

神奈川県立横浜立野高等学校

3．実践者名（代表者名）

関本　恒雄

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

公民(現代社会)　156人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞記事を利用した1分間スピーチ

7．目標(狙い)

新聞を読むきっかけを作り、発表能力をつけるため。

8．評価の視点

原稿内容、声の大きさ、時間の3項目に絞り単純化した。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

社会のあらゆる事柄について関心を持とう。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①授業の開始後、発表予定日の一週間前から最新の新聞記事を自ら選び、一分間を目安に教室で発表する。
②1単元での発表人数は4人。約1ヵ月半で全員を実施(1クラス40名)
③生徒が選ぶ記事の題材は、スポーツを除いたあらゆる事について対象とした。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

友達の発表を聞き、自分とは異なった関心、又は自分と同じ関心を持っている事を知り、生徒間の話題性が豊富になった。

12．成果と課題

1分間(ほとんど1分30秒前)という短い発表であったが、声の大きさ、目線など発表能力を高めるためのステップとなった。しかし、発表能力は、1回の体験では不十分であり、体験を繰り返す必要がある。1教科では、限界性もあるため多教科との連携が必要と感じられた。